

三田市教育振興基本計画検討委員会（第1回） 会議録

日 時	令和2年12月16日（水） 午後7時から午後9時10分
開 催 場 所	三田市役所南分館6階601会議室
出 席 委 員	佐藤 真、中間 玲子、仲矢 史雄、尾上 尚司、大東 真弓、藪田 昌夫 下中 邦昭、橋本 真由美、松本 衣里香、岸本 高太郎
欠 席 委 員	—
学 校 関 係 者	岡崎 正文、吉田 裕彦、廣瀬 みちか、谷本 正弘（欠席）
事務局出席者	（教育長）鹿嶽 昌功 （学校教育部長）松下 修 （地域創生部市民協働室長）印藤 昭一 （子ども・未来部子ども未来室長）仲井 浩一 （子ども・未来部子育て応援室長）脇田 実夫 （学校教育部次長）外岡 明文 （教育総務課長）浅野 晋司 （学校教育課長）山本 直也 （教育支援課長）山口 貴久 （教育研修所長）村岡 智行 （教育総務課担当課長）上野 樹 （学校給食課主幹）杉山 貴彦 （学校教育課主幹）荒木 裕樹 （教育総務課主任）鈴木 さやか （教育総務課指導主事）松田 成行
議 題	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 教育長あいさつ 3 委員紹介 4 事務局職員紹介 5 委員長及び副委員長の選任 6 正副委員長あいさつ 7 諮問 8 議事 <ol style="list-style-type: none"> （1）第3期計画策定に係る基本的な考え方等について <ol style="list-style-type: none"> ①計画策定に係るスケジュール 【資料1-1】 ②計画策定の趣旨及び計画の位置づけ・対象範囲・計画期間 【資料1-2】 ③教育に関する制度等の状況及び子どもの教育を取り巻くわが国の状況 【資料1-3】 （2）統計からみる三田市の教育に関する状況について 【資料2】 （3）三田市の教育に関するアンケート調査 調査結果報告書について 【資料3】 （4）第2期計画の振り返りについて 【資料4】 9 意見交換（フリートーク） 10 次回予定 11 閉会
傍 聴 人	4名

会議の概要

事務局(司会)	1 開 会 予定の時刻となりましたので、只今から第1回三田市教育振興基本計画検討委員会を開会させていただきます。皆様におかれましては大変お忙しい中、お越しいただきありがとうございます。 (資料確認) それでは開会にあたりまして鹿嶽教育長よりご挨拶申し上げます。
教育長	2 教育長あいさつ 教育長：(挨拶)
事務局(司会)	3 委員紹介 委員紹介
事務局(司会)	4 事務局職員紹介 職員紹介
事務局(司会)	5 委員長及び副委員長の選任 「委員長及び副委員長は委員の互選によって定める」となっておりますが、いかがでしょうか。(意見なし) 差し支えなければ、事務局から提案させていただいてよろしいでしょうか。 (異議なし) 佐藤委員を委員長、中間委員を副委員長として提案しますがいかがでしょうか。 (異議なし) 佐藤委員を委員長、中間委員を副委員長として選任。
委員長 副委員長	6 正副委員長挨拶 委員長：(挨拶) 副委員長：(挨拶)
事務局(司会)	7 諮問 続きまして教育委員会より三田市教育振興基本計画検討委員会に計画策定に関する諮問をさせていただきます。諮問内容は本日配布の諮問書の写しのとおりですので時間の関係上読み上げを省略させていただきます。 鹿嶽教育長より佐藤委員長へ諮問書を提出させていただきます。
教育長	第3期三田市教育振興基本計画の策定に関する調査審議を諮問いたします。よろしく願いいたします。 (諮問書の提出)

事務局(司会)	委員の皆様にはご審議のほどよろしくお願ひいたします。それではこれ以降の議事進行につきまして佐藤委員長にお願ひいたします。
委員長	<p>只今、三田市教育委員会より計画策定に関する調査審議の諮問をいただきました。限られた時間のなかで委員の皆様の見解や事務局の提案を議論しながら、未来ある三田市の教育ビジョンを示していきたいと思ひます。</p> <p>それでは議事に移ります。今回の第1回は初顔合わせということもありますので、皆様の教育についての思ひやご意見をお聞かせ願ひたいと思ひ、後半に意見交換、フリートークの時間を設けております。できるだけこの時間を多く持ちたいと思ひておりますので、議事進行についてご協力をお願ひいたします。</p> <p>(議事録の氏名表記の確認 肩書のみ表記する)</p> <p>8 議題</p> <p>(1) 第3期計画策定に係る基本的な考え方等について</p> <p>①計画策定に係るスケジュール</p> <p>②計画策定の趣旨及び計画の位置づけ・対象範囲・計画期間</p> <p>③教育に関する制度等の状況及び子どもの教育を取り巻くわが国の状況</p> <p>(2) 統計からみる三田市の教育の現状について</p> <p>(3) 三田市の教育に関するアンケート調査 調査結果報告書について</p> <p>(4) 第2期計画の振り返りについて</p>
委員長	それでは(1)第3期計画策定に係る基本的な考え方等について①から③まで事務局より説明お願ひいたします。
事務局	事務局：(説明)
委員長	<p>ありがとうございました。それでは只今のご説明におきまして特にここで聞きたいことはございませんか。なければ議事の最後にも再度ご質問を承りたいと思ひますがよろしいでしょうか。</p> <p>(質問なし)</p> <p>それでは先に進めさせていただきます。</p> <p>続きまして(2)統計からみる三田市の教育現状について、(3)三田市の教育に関するアンケート調査と調査結果報告書について事務局より説明をお願ひいたします。</p>
事務局	事務局：(説明)
委員長	ありがとうございました。市の現状とアンケートによる結果報告概要を伺いました。これらの資料をもとに今後取り組みを検討することになります。何かご質問はありませんか。よろしいでしょうか。では、(4)第2期計画の振り返りについて事務局から一括して説明をお願ひいたします。

事務局 委員長	事務局：(説明) ありがとうございます。第2期の冊子に基づきまして振り返りということですが、まだ第2期が完全に終わっているわけではございませんので、データに出てきているところもあれば完全には全てのデータが出し切っていないところもあります。
委員	資料4の一番右側の第3期計画に向けた課題については、キーワードを中心にさせていただきます。 この点につきまして何かご質問、ご意見等ございますでしょうか。(意見なし) それでは、ここでこれまでの議事を終わり、次の意見交換、フリートークに移りたいと思います。 本日は委員会の1回目ということですので、各委員の皆様の今後の三田の教育に対する思いや関心事を共有して、次回以降の検討委員会の議論へとつなげていきたいと思います。 ここからはフリートークということですので、各委員の皆様が今後の子どもたちの教育に関して大切に思うことなどを自由にご発言いただきたいと思います。 先程事務局から紹介がございましたが、この場で自己紹介も兼ねて皆様から1人ずつご発言いただきたく思いますのでよろしくお願いいたします。
委員	<p>9 意見交換（フリートーク）</p> <p>大阪教育大学の仲矢と申します。理科教育と附属学校の教育改革、近年特別支援教育 ICT を活用する先駆的な取り組みを小中高学校に広めていくようなお手伝いをさせていただいています。</p> <p>附属学校のお手伝いをさせていただいていますが、大阪市内の学校の先生方はへとへとでございます。</p> <p>私も出前授業で、理科室での実験などさせてもらいますけど、手ごわいです。手ごわいのですが、その分やりがいもあり、その兼ね合いもあって先生方は疲れていらっしゃるのではないかと考えています。</p> <p>特に私が見ていて昔と今は違うなと思うのは、若い先生が多いことです。職員室を見させてもらうと25歳から30歳くらいの先生が中心にいらっしゃいます。子どもたちと年が近いことで学校全体の活性化はすごく高まっているのではないかと思います。</p> <p>特に大阪は、他の都府県、周りの市区町村よりも世代交代が早い感じがします。逆に言うと、これからその状況が三田の学校でも出てくるのではないかと思います。いい面もありますし、逆に一気に世代交代が進んでしまうことでノウハウが継承されないということもあります。</p> <p>大阪市の特徴としては、学校規模が小さいので、例えば中学校に理科の先生が1人、2人だったりすると、相談する相手がいません。環境的に相談相手になるような先生がほしいという声が出てきています。</p> <p>どういうことを相談したいかを聞くと、学習障害を持っている子どもたちにどう</p>

やって自己肯定感を持って学ぶ環境を提供したらいいのか、どうやって支援すればいいかなどです。

一方でその子たちだけを見て、対応すると、1クラスあたり大体27人、28人とした時に、26、27人の子たちがほったらかしになってしまい、そのバランスをどうしたらいいのかというのが非常に大きい課題です。

もしこれに予算があればいい形でできるのでしょうか、なかなかうまくいかないというあたりをこれから新しい取り組みをしないとイケないということになります。

足し算で考えがちですが、逆に非常に一番難しいことは、何かを削らなきゃならない、という意味で言うと優先順位がこの先すごく重要だと思います。

保護者が考える優先順位と、学校現場の優先順位が共通する部分もありますが、違う部分もある、そこの合意がこれからの課題と考えます。

義務教育の後、高校に行くわけですが、高校につながる学びにしてあげられたらいいと思っています。

三田祥雲館のスーパーサイエンスハイスクールのお手伝いもさせていただいております。祥雲館の生徒たちが子ども向けの実験教室をしています、子どもたちも高校生もすごくいいと言っています。

小・中学校のときに祥雲館高校と触れ合ったことがきっかけで祥雲館に行こうと思いましたが、高校の先生や高校生から聞くことができ、そういう意味では非常にいい地域性があるのではないかと思います。

さらに関西学院大学も他にはない非常に恵まれているアドバンテージであるのではないかと思います。お手伝いさせてもらっています。

委員

尾上と申します。今現在は障害のある子どもたちの療育、教育に関する仕事をしておりますが、それまで野外活動、キャンプ、体育、その他英語の専門学校、ホテルの専門学校、日本語の専門学校を後援する団体の責任者をしていました。

その団体は、500人位の大学生のボランティアが今も活動しています。

毎年100人ずつ卒業していくのですがそのうち多分20人から30人は幼稚園から大学までの教員になっていく神戸にある団体です。

先程の仲矢先生のお話に出てきたように、やっぱり相談する相手がいないのか、教員になっている者たちが、私に相談にきます。

教育の指導の仕方についての相談があったり、教員間の関係の相談があったり、孤立している教員の方々の実態だと思っています。

三田にそういう団体を作るために来させていただきましたが、ものすごく豊かな自然のなかでのびのびと大きくなっていく子どもたちというのが実感しました。

子どもの輪は、子どもの中で育つものであって、そういうことでは、三田市は、子どもの人口の数の偏りをどうやって解決していくのかなと認識しています。

また、都市部に比べて多様性という面で、様々な職種の大人たち、出身地の方々と触れ合う機会が少ないということも想像しております。

学校の先生と親としか大人と触れ合う機会がないような子たちも存在していま

委員	<p>す。どのような形で子どもたちの社会性が発達していくのかと常々考えております。</p> <p>大東と申します。今年度と前年度の教育委員会の評価委員をさせていただきました。学校支援ボランティアの小学校のコーディネーターと、放課後子ども教室、子どもの居場所作りとして色々なイベント、子ども食堂を月1回しています。</p> <p>アンケートにある、地域全体の子どもの学びと成長の支援について、地域の教育力を維持していくことが難しい現状も伺えますとありますが、本当に地域でしかできないこともあると思っています。</p> <p>サードプレイスと言われる地域ですが、子どもたちは、学校では自分の成績のことなど、地域の何のしがらみのないおばちゃんたちの前では、本当に色々なことをつぶやいてくれます。</p> <p>そのつぶやきを拾いながら、子どもたちにべったりとは寄り添えないけれども、距離を取りながら寄り添っていくというのが子どもたちの安心の場となっています。</p> <p>このコロナ禍で、いつもやっている学び舎を閉めていたが、3日間ご飯を食べていないという中学生がおり、結局1か月は週2回夜ご飯を食べさせ、次は魚を食べさせるから釣り方を教え、料理1品持ってくるか自分で作りなさいと料理を教えたりしました。</p> <p>その結果、その子自身が、大人を信じてもいいと思ってくれ、この半年ですごく成長しました。</p> <p>「じばやん」というところで活動していますが、その学習支援でも子どもたちの世話をしたり、食堂をした後も、率先して後片付けをしたりするようになりました。</p> <p>地域のお蕎麦屋さんが無料でその中高生をお蕎麦に誘ってくれましたが、これまでラインでもお礼をしなかった子が長文の文書でおいしい天ぷらを食べさせてもらった、こんなこと忘れられないと書いてきました。</p> <p>学校ではできないこと、家庭ではできないこと、地域にはその役割があるのだなと思いました。</p> <p>1年くらい前までは何の将来のこともしゃべらなかつた子が将来こんな仕事に就きたいと言い出したりしました。</p> <p>1人でも2人でも「じばやん」が自分の居場所になっているのが嬉しいです。</p> <p>そこには関西学院の学生が来て学習支援をしてくれています。中高生にとっては、大学生と身近につながり、よい目標になっています。</p> <p>地域の教育力を継続するのは難しいですが、やりがいを感じながらやっています。</p> <p>学校支援ボランティアやコミュニティ・スクールを進めていますが、学校側も学校を開くということに躊躇している部分があり、一步お互いに踏み込んだら信頼関係が生まれて色々な情報交換ができるのですが、一步踏み込むことができていません。私はお互いに踏み込んで激論を交わして喧々譁々やることで、子どもの情報共有ができたり、地域の声もあげられます。壁を突破することを教育委員会もお手伝</p>
----	--

<p>委員</p>	<p>いをしていただかないと地域だけでは進まないのではと思います。</p> <p>藪田と申します。今年度から教育委員会点検・評価委員をさせてもらっています。これまでは、小学校中学校と PTA や三田市の連合会 PTA をさせていただいていました。この6年ぐらい PTA で関わりながら子どもたち、保護者、学校とも話をしてきました。</p> <p>問題点が色々出てくるのですが、どうしてもそこに親がひっかかってきます。子どもたちが、これができない、何でかと突き詰めていくと、親がまずしない、スマホやゲームの時間を区切ってできたらいいねというルールづくりができていないのです。</p> <p>親が横で携帯触りながら勉強しなさいと言っても効果はありません。親がやろうとしないのに、子どもにはやらせようとしています。</p> <p>PTA でも、役員をやってほしいとお願いしても、それはできないです、と言いながら子どもにはもっといろんなことをやりなさいと言っています。</p> <p>親全般的にそういう風潮があるように思います。自分のことは見ないで子どもにはあれをしろ、これをしろと言います。</p> <p>中学生になって高校を選ぶ時も、親は近くの公立、できたら自転車で行けるところに行ってほしいと言います。でも子どもたちは、夢を持ってこの学校に行きたい、遠くてもいいからこの高校、この科に行きたいと思っても、親との間であきらめて近くの学校を選んでいるのを多々見てきています。</p> <p>新学習指導要領でも、自分で生きていく力をつけようとしている中で、親が保守的で子どもに思い切ったことをさせてあげられないでいます。</p> <p>子どもたちに対する教育が十分必要だと思いますが、保護者にも理解してもらい、保護者自体が変わってもらわないといけないと思いつながら、子どもたちと接しています。</p> <p>今回この検討委員に選ばれ、資料が多くて大変なことだと思いつながら、次回までの宿題となっている資料の読み込みを頑張りたいと思いつています。</p>
<p>委員</p>	<p>下中と申します。八景中学校 PTA の会長で連合 PTA の会長をさせていただいています。男の子が2人いて土日は、ほぼ少年野球をしていた関係で、今、少年野球協会の役員もさせてもらっています。</p> <p>長い間続けていて思うことが、少年野球を卒団した子たちとショッピングモールなどで会った時に、挨拶してくれる子と挨拶してくれない子、両極端になっていく現状があります。</p> <p>挨拶してくれる子は、やっぱり部活もきちりできていて、勉強もできているのだらうなという感じがして、まずいなという顔をする子は、学校生活もうまくいってないのだらうなというのを多少感じています。そこをきちりできるようにしていけたらと感じています。</p> <p>藪田さんもおっしゃいましたが、宿題が多すぎてなかなか苦労しそうですが、頑張っていきたいと思いつています。よろしくお願いいたします。</p>

<p>委員</p>	<p>こんばんは、橋本と申します。藍中学校の PTA の会長をさせていただいています。</p> <p>先程お話があったように、親が率先して挑戦していかないと子どもに頑張れ頑張れと言うばかりじゃダメというのが、今すごく耳が痛かったです。</p> <p>計画策定の趣旨に少子高齢化やグローバル化、絶え間ない技術革新等、社会情勢が急速に変化する予測困難な時代となっていており、生きる力をさらに伸ばし社会の激しい変化に対応し自立して社会に関わり、未来に向けて新たな価値を創造できる力を育むことが重要と載っています。</p> <p>この自立して主体的にというのがすごく大事だと思いました。こういう経験を経て自己肯定感とか自尊心の向上につながっていくのではないかと思います。</p> <p>何が起ころうとも強く生きていける力を三田市の子どもたちには育てていってほしいと思っています。</p> <p>そのために親である私たちがどんなことができるのか、もっと考えていかなければいけないと改めて感じました。</p> <p>何でも率先して自分から頑張っていこうと思いますのでよろしく願いいたします。</p>
<p>委員</p>	<p>初めまして松本衣里香と申します。私は育ちが中国北京で、日本には17年前に大学留学で来ました。</p> <p>弥生小学校の PTA 会長をしており、中学校1年と小学校3年生の男の子がいます。子どもの教育、生活、家庭面、地域の皆さんとの関わりの中で、自分が親として何ができるかということ考えた時に、PTA 会長ならどんなことでもまず自分が体験できて色々な関わりが持てると思い会長になりました。</p> <p>日本の保護者と地域、保護者と学校側との関係性、やり方について改めて中国との違いを感じました。びっくりすることやいい面もたくさんあります。</p> <p>日本は、先生より保護者の立場が強くなっています。中国では先生が言うことは絶対で、教育者としての立場は高く、先生と保護者、保護者と子どもは尊敬語を使っています。</p> <p>日本では、小学校の子どもは、先生に対してタメ口が多く、教えてもらう立場なのにタメ口というのは先生に対しての尊敬、敬意がないと思いました。敬意がない人に何で教えてもらおうと思うのか、そこがまず気付いた面です。</p> <p>教育者として保護者、子どもよりも立場を高く確立していけば、日本の教育は違うようになると思います。</p> <p>私が留学先に日本を選んだのは、アジアで一番近い国、行きやすい国というのもありましたが、日本は、2003年に経済が世界2位、中国が3位でした。</p> <p>美しい国だったし日本に行くことが夢というのもありました。日本に行けば私の夢、未来がすごく輝くのだろうなと思いました。私が思った美しい国が、すごいスピードで発展が停滞して、自分が夢や希望を持っていた国が、子どもたちには未来</p>

	<p>が曖昧というのが不安で悲しくなります。</p> <p>今回保護者代表としてこの話を受けた時に、これはまず1つのチャンスかもしれないと思って参加することにしました。</p> <p>自分の言葉が生かせるか分からないですが、重みと責任を感じます。自分の子どもの未来のために一步でも何かいい方面に進んでいけたら親としてとても嬉しいと思います。</p> <p>日本のいい面、日本人の根気強さというのを実感することもたくさんあり、そういった国の人たちが、このままというのはもったいないと思いました。</p> <p>自分ができることが1つでもあれば、私も頑張っていきたいと思います。自分の学びと成長と思って喜んで進んでまいりたいと思います。よろしく願いいたします。</p>
委員	<p>初めまして岸本です。ゆりのき台小学校の PTA 会長とウッドィタウン地区の連合会のとりまとめ役をしている関係で、この委員をやることになりました。ここにおられる方全員志の高い方が多く、申し訳ない気持ちでいっぱいです。</p> <p>PTA 会長として、過去の PTA 会長よりも爪痕を何とか残そうと思って色々取り組んでいます。</p> <p>小学校の学年活動が難しくなっていますが、教育委員会の方と連絡をとり合い、色々な話をして、助けていただいた部分もあり、大変なことも、やることによって自分の支えやプラスになることがたくさんあると思いました。</p> <p>ゆりのき台小学校でのコミュニティ・スクールが、来年で10周年になります。コミュニティ・スクールも学校や行政、地域と協力して子どもの教育を頑張っているというスタンスですが、私は PTA 会長をするまで知りませんでしたので、大東さんの話を聞いて感動しました。</p> <p>なぜ地域の人が頑張ってお教えないかならぬのかを考えた時、確かにうちの子どもも、私には言わないけど違うお父さんや他の人に話している姿を時々見るので、多分そういうことなのだなってというのが今、はっと思わされ、この場に来てよかったですと思いました。</p> <p>ここで得たことを学校に戻って学校や PTA の方に還元し、より良い体制、これからの教育に向けて取組んでいければと思っておりますので、これからも頑張ってお参加したいと思います。よろしく願いいたします。</p>
委員長	<p>ありがとうございました。検討委員の方々からご挨拶をいただきました。次に学校関係者の方から一言ずついただけますでしょうか。谷本校長先生は欠席ですので岡崎校長先生からお願いいたします。</p>
学校関係者	<p>三輪小学校の岡崎と申します。よろしく願いいたします。</p> <p>今年は、コロナということで子どもたちもマスク、手洗い、アルコール消毒、給食の時も一言もしゃべらず、1年生もしっかりやっけていて本当にすごいなと感心しています。</p>

保護者の皆さんも毎日検温していただき、子どもたちの健康管理を一生懸命やっ
ていただいて感謝しております。

自分の健康を守るだけでなく、友達や家族の健康、みんなの健康を守り合うの
だということを合言葉にしながら、色々な取り組みをしています。

また保護者、地域の皆さんが子どもたちの安心安全に非常に関心が高いことを感じ
ています。

登下校や不審者などについては、関心が高く、地域、保護者の皆さんの見守り活
動をしていただいております。

学校内では、いじめや不登校についても、学校できちんと家庭と連携しながら、
しっかりと取り組んでいかなければならないと考えています。

また虐待は、教育と福祉、家庭児童相談室とも連携しながら取り組んでいかなけ
ればならないと思っています。

学校教育のベースとなる安心安全という部分については、この方針、計画の中で
力強いメッセージを出していけたらと考えております。

子どもたちの学力向上にもしっかりと取り組んでいかなければなりませんし、G I
G Aスクールも、1人に1台タブレットが今年度中に入ってきますので、そういう
教育も始まってきて、学校としてもしっかりやらなければと思っています。

日頃、子どもたちを見ていて思うことは、心、忍耐、そういう部分が弱いという
ことです。面倒くさいとか嫌だとか、すぐ弱音を吐いてしまい、あきらめが早い子
がいます。

最近の離職率を調べてみると就職後3年目までで、大卒が32%、高卒が40%、
中卒が60%離職しています。まずはコツコツとやり抜き、粘り強く働くことが大
切です。勉強することもそうですが、そういう力をつけていかなければと思ってい
ます。

また、弱い点として思うのがコミュニケーションスキルです。

少子化・核家族化の中、遊びもゲームが中心で、人と絡んでコミュニケーション
を取りながら遊ぶという体験・経験が少ないためか、相手がどういう気持なのかを
推察する力が弱いです。自己中心的で独りよがりになって友達とトラブルを起こし
てしまうこともよくあります。

コミュニケーションスキル、ソーシャルスキルをしっかり子どもたちに身に付け
させなければと思います。

そういう力をつけていく、たくましい心を作っていくには、人と共に大変なこと
でもやりとげる体験というのが非常に大事です。

小学校であれば、清掃活動、奉仕作業、体験活動、中学校では部活動なども大事
だと思います。

座学では学べないこと、体験や経験を通してしか学べないこともたくさんあるの
で、ICT教育と合わせて、実際の体験活動も重要に取り上げていく必要があります。
バーチャルだけの世界では、人間は育たないと思います。

たくましく生き抜く力を子どもたちにつけていくことが、ひいては自尊感情を高
めることにつながっていくのだと思っています。そういうことも計画に反映でき

<p>学校関係者</p>	<p>たら嬉しいと思います。よろしくお願ひいたします。</p> <p>ひまわり特別支援学校校長の吉田と申します。よろしくお願ひいたします。</p> <p>ひまわり特別支援学校は、開校6年目の若い学校で、富士小学校と富士中学校に併設して特別支援学校があります。</p> <p>肢体不自由の子どもたちですが、多くは知的障害を持って医療的ケアを必要とする子どもがほとんどです。</p> <p>発信力の弱い生徒が多いですが、それでも装置を使いながら表現させています。視線を向けたらそれを選択したという形、また瞬きをすればスイッチが入ってものが動き出すなど、ルールを作り表現しています。</p> <p>生徒の持っているものを使って表現させることで、生徒が生き生きしています。自分は何かできるのだ、自分がここで関わってみんなに発信するのだ、という気持ちを持ちをみんなが持っているところが、すごいなと感じています。</p> <p>子どもの個性や特性に応じた教育をしていかなければいけないと思っていましたが、そういうことを考えて進めてきている学校だと思っています。</p> <p>1年前、文部科学大臣が個別最適化という言葉が使われました。これは特別に支援がいる子・いない子関係なしに、生徒1人1人は、学びが違うのだから学び方を子どもに合わせ最適化しようということです。</p> <p>読み方が分からなくて宿題の意味が分からない場合、例えば宿題がタブレットで出て今だったらボタン1つ押したら音声で聞かせてくれるというのがあります。社会をしようとしているのに国語で困っていたら社会の勉強はできません。</p> <p>ちゃんと学べるようにしていかなければいけないということで個別最適化という言葉を使っていました。これは特別支援の世界ではよく使われている考え方ですが、これが通常の教育で考えていくべきことだとメッセージされたことにすごく痛感して、この考え方を大事にしていきたいと思っています。</p> <p>また本校は、小学部、中学部、高等部があり高校生の年齢の生徒さんも一緒に勉強しています。高校生を対象としているのは本校だけですが、高校生を卒業したら社会に出ていくことになりますので、社会で生きる力を育むために日々やっているとこです。</p> <p>教育でもそれを頑張っていますし、子どもたちが受け入れてもらえる社会、働くところなど、日常的に力を発揮でき余暇活動できるような地域を作っていくということも学校としてやっていかなければと進めているところです。</p> <p>この教育振興基本計画で、学校だけではなく地域の話も出ていましたが、地域や卒業後の社会にも視点を置いて考えていけたらと思います。</p>
<p>学校関係者</p>	<p>三田幼稚園の廣瀬です。幼稚園では、コロナ禍の中自分の健康を守る方法を幼児に分かりやすく伝えられるよう工夫しながら指導しております。</p> <p>3歳児の子どもたちはマスクをつけることが難しいですが、保護者にも協力していただいています。</p>

カバンにマスクの替えを2枚くらい入れていただき、必要に応じて替える習慣を身につけたり、マスクの衛生面の扱い方などを伝えたりして、子ども達もマスクをしないといけないのだと理解しながら毎日過ごしているところです。

それでも悪いことばかりでなく、新しい生活様式の中、手の消毒や人との距離を保つこと、自分の身を守ることや健康に気をつけることなど、子どもたちが成長している部分もたくさんあります。

先程から色々なお話が出てきていますが、幼児期というのは人格形成の基礎を培う時期と言われ、何につけても基礎という言葉がきます。小中における、またその先を見据えた人格や学ぶ力をつける基礎を育む教育の場です。

自分のできることを増やす、自分で決める、例えば色は何色にしようかと選ぶことなど、小さな経験の積み重ねが子どもたちの自立心や考える力に繋がります。

また、協同性や人とかかわる力、乗り越える力などをつけるために、遊びの中で経験を積み重ねていけるようにしています。

一方でとても便利な世の中になり、入園直後の子どもの中には、水道で手を洗う時に、手を水道の下でかざして出てこないと言う子がいます。蛇口をひねらないと水が出てこないということを学習します。

便利なことはいっぱいありますが、その反面自分で何とかしようとする、自分で考えること、動くという力が不足していることが課題だと思います。

また、兄弟も少なくなり、地域によっては同年齢の子どもたちと遊ぶということも少なくなってきたので、色々な人とかかわる機会が大切ではと思います。

さらに、生活スタイルや社会の状況の変化により、保護者の多様な保育ニーズや子育てプラス親育て支援、虐待や子どもの問題行動などの課題もあるのではないかと考えています。

副委員長

改めまして中間です。私は大学で特に発達心理学を専門としていますが、委員の皆様のお話を興味深く拝聴させていただきました。

皆様のお話を聞いていて、子どもがコロナにしっかり真面目に取り組むなど、一途にやる柔軟さは、それこそ環境とか働きかけだと改めて思いながら聞いていました。

アンケートを見させていただいたのですが、一般市民からのアンケートの回収率がすごく高く、それだけ地域の人たちの教育への関心の高さを感じました。

先程、大東委員が今一步踏み込めない中で、自分が踏み込んだ時に居場所になるとお話をされました。

コミュニティ・スクールなどがもっと活性化していくことで、どんな教育というのが見えてくるのだろうというのをこれから楽しみにさせていただきたいなと思いました。

また主体性のお話が出てきましたが、自己や主体性の研究について色々考えていると、相互にお互いを守り合うことや、個人個人を育てようという時に、関わりというものを育てないと、人の人格は育たないかと改めて整理しているところです。

つまり、個々人に向き合うことだけではなく、みんなといることで楽しい気持ち

<p>委員長</p>	<p>になれて、生きることが楽しいとか活動することが楽しい、もっと頑張ってみよう、そういった気持ちが育っていけばいいのだろうなという印象です。</p> <p>また楽しいとかポジティブな気持ちが大事だと言われますが、大変な思いもさせ、どう頑張ってもらうか、長期的に見たときに充実感を得られるような幸せの感じ方を意識していくということも考えながら聞いていました。</p> <p>卒業後の話もありましたが、学校というのは期間で完結するのではなく、目の前の子どもと、その数年後、十数年後を考えていく必要があるのだなと思いました。</p> <p>ありがとうございました。佐藤です。よろしく願いいたします。関西学院大学に来る前は兵庫教育大学にいました。</p> <p>私の専門は、カリキュラムと教育方法と教育評価ということで教育学です。</p> <p>この20年ほど、教科の縦割りというよりも横を通して探究をどうやって続けるかということの研究してまいりました。</p> <p>探究とは持続力、粘り強さが重要で、いいこともあれば悪いこともあります。右肩上がりじゃないときもあり、下がっては上がり、だんだん上がっていけばいいわけです。</p> <p>粘り強く辛抱強くやっていくことが探究で、アクティブラーニング、主体的対話的と言われていています。主体性というよりも励まされてやっています。</p> <p>1人で頑張るのは難しく誰かに励まされて誰かのために、おばあちゃんのためとか周りの人が励ましてくれたとか先生のため、そういう部分でやっているように思います。</p> <p>評価については、学びに向かう力もありますが、学力は教えられれば高くなるけど教える人や親がいなくなったらおしまいで、最後に1人で生きていくときにどうやっていくのか、誰がいなくても生きていけるぞということが重要だと思います。</p> <p>コロナの時代で、学生の体力がないとか、リモートで座ってばっかりなので足が弱くなりましたという話が出ました。</p> <p>あるおばあちゃんが、沖縄戦の時に比べれば、これぐらいが辛いのだったらダメでしょと話をされていました。</p> <p>耐える力もそうですが、活力というのは、ただワイワイガヤガヤするのではなくじっと堪えながらやっていく、辛抱強さも重要と思っています。</p> <p>『初等教育資料』の12月号に、日常どんなに辛くても学校は非日常であって、学校に行ったらウキウキする、ワクワクする部分がある、どんなに辛い世間、家で色々あっても、学校に行ったら何か非日常性を味わえる、希望を見せてくれるのが学校なんじゃないかと書いてあります。</p> <p>幼小中と垂直次元で考えることばかりだが、そうではなく水平次元で家庭が真ん中で学校と家庭、地域と家庭というような水平次元で考えていくことが教育の大きい視点かなと思いました。</p> <p>教師と子ども、保護者それから学校、家庭、地域それから幼小中高大、もっと立体的に考えていかなければと思っております。</p> <p>また自立性というのは誰かにやれと言われたからではなく自らやるということ</p>
------------	--

	<p>です。</p> <p>教育改革でも事業改善でも先程の PTA の話にも出ましたが、まず自らやって、先生、保護者も子どもにその後ろ姿を見せることで子どもが育っていくのではないかと考えています。私たち自身がしっかりやっていかなければいけません。</p> <p>次回までに私たち自身がこれらを主体的に読み深めないといけないということもあります。次回にこれを整理していただいてこの後に結び付けたいと考えております。ありがとうございました。</p> <p>今日の予定はこれで終了です。事務局何かございますでしょうか。特になければ本日の審議はこれで終了とさせていただきます。これ以降の進行につきましては事務局に渡したいと思います。</p>
事務局(司会)	<p>佐藤委員長ありがとうございました。委員の皆様も長時間にわたりまして色々ご意見、希望、夢色々語っていただきました。ありがとうございました。</p>
事務局	<p>10 次回予定</p> <p>事務局：(説明)</p>
事務局(司会)	<p>11 閉会</p> <p>閉会にあたり松下学校教育部長からご挨拶を申し上げます。</p>
松下部長	<p>部長：(挨拶)</p>
事務局(司会)	<p>それではこれで閉会とさせていただきます。皆様長時間ありがとうございました。</p> <p>(閉会)</p>